

第2回調整部会が出された主な意見と修正内容について

No	章	項目	意見概要	修正内容	該当箇所
1	はじめに	同左	<ul style="list-style-type: none"> ・10年間の振り返りは、1/4の程度で良いかも知れない。首都直下地震は、2回も出てこなくて良い。 ・この10年の取組として、保育待機児童ゼロやエクレンシアの取組だけでなく、コロナ対策における病院への補助も画期的な政策なので、追記して良いのでは。 ・災害やコロナなどタイムリーな事項が書かれているが、これまで・現在・将来的なことを考えた時に、「安全・安心のまちづくり」や「高齢社会を見通して」、「人口構造の変化」などを入れると、さらに良くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ病床の確保などの対策を講じた区内基幹病院に対する包括的な経費補助などの支援策を、国や東京都の対応を待つことなく、区において実施してきた旨の記載を追記。 ・今後の社会経済環境の変化として、超高齢社会の到来や区内単身高齢者世帯の増など人口構造の変化の記載を追記。 	見開き10行目、21行目
2	第1 基本構想策定の背景	基本構想の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・基本構想は、「羅針盤」であるとのことだが、この先10年は読めないという大前提に立った羅針盤と位置付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後生じる社会経済環境の変化を正確に予測することは難しく、未来への道筋をはっきりと描くことには困難を伴う旨の記載を追記。 	P1 6行目
3	第1 基本構想策定の背景	現基本構想に基づいた区の取組の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・現基本構想の進捗状況の検証・評価の表があるが、記載されている内容は、部会が出された主な意見レベルとなっている。どの分野も現基本構想における課題を明確化し、解決の方向性を記述するのが良いのではないか。 ・総じて評価するという意見が出たということだが、新たに策定するに当たっては、評価の意見がある一方、これからの課題についても多く指摘された。 ・検証・評価を表にまとめるなら、課題も書くべき。そもそも表にまとめるのは難しいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・審議会の検証について、概ね評価できるとの意見の一方で、今後さらに推進していくべき課題についても様々な意見が出たとの記載を追記。 ・各部会が出された進捗状況についての意見の表は、削除。 	P1 20行目
4	第1 基本構想策定の背景	区を取り巻く環境変化と対応	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的包摂という表現は、区の構想にはなじまない。同調圧力にもとえられかねない。ソーシャルインクルージョンや多様性と一緒の説明するのが普通となっている。ただ、「インクルージョン」ではなく、「ソーシャルインクルージョン」などの表現があるのではないか。 ・「多様性つつながりのある」と表現を変えるほか、ダイバーシティに含めるなどの記載も考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・項目⑤の表現の一部を「多様性つつながり」に修正。 ・すべての人々を孤独や孤立、排除から守り、社会の構成員として支え合い、包み込むという、ソーシャルインクルージョンの考え方を追記。 	P3 11行目

No	章	項目	意見概要	修正内容	該当箇所
5	第1 基本構想策定の背景	区を取り巻く環境変化と対応	<ul style="list-style-type: none"> ・区が持つポテンシャル・可能性について言及してはどうか。杉並の資源、社会資本がもっと活用、伸ばせる、反映できるとの記述を入れてみてはどうか。 ・検証の表がやや具象化されているので、抽象化し、区が持つポテンシャル・可能性というのを項目立てして、次のテーマにふれる。 ・もしくは、区のポテンシャルを具体的な方法論に結び付けたいのなら、理念の前に記述するのも良いのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「⑦区民の力こそが原動力」の項目を追加し、区の歴史や、今後の区の実現の礎となる区民力、底力（ポテンシャル）について記載。 	P4 8行目
6	第3 将来像の実現に向けた3つの理念	互いに認め合う 共に支え合う	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な価値観、考え方、生き方を認め合うという点を、今の基本構想には入れていく必要がある。 ・SDGsは、国際標準なので、杉並区なりにふれる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1 基本構想策定の背景、「③誰一人取り残されることのない社会の実現に向けて」の箇所において、SDGsへの区の考え方を記載（P2下段）。 	P6 4行目
7	第3 将来像の実現に向けた3つの理念	安全・安心のまち つながりで築く	<ul style="list-style-type: none"> ・安心は主観的で、安全は客観的なものである。本文では、安全・安心と表現しており、安心だけで良いか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「安全・安心のまち」に修正。 	P6 9行目
8	第3 将来像の実現に向けた3つの理念	次世代をはぐくみ つなげる	<ul style="list-style-type: none"> ・「杉並の次代を担う若者」とあるが、子どもは入らないか。 ・子どもは、今を生きている。子ども時代、子ども期を大事に過ごすという視点が入っても良い。 ・杉並の文化と歴史を改めて区民に伝えることは、アイデンティティや自負につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・杉並の次代を担う「若者」を「子ども」に修正。 ・第1 基本構想策定の背景の箇所に、「⑦区民の力こそが原動力」の項目を追加し、区の歴史を伝える視点を記載（4頁）。 	P6 15行目
9	第4章 目指すべきまちの姿と取組の方向性	分野「まちづくり・地域産業」	<ul style="list-style-type: none"> ・「多心型」という言葉は、過去、都庁でも使っていたことがあるが、今は使っておらず、生活拠点や生活中心などという言い方をしている。もっとわかりやすく表現することはできないか。 ・多心型という表現は、イメージしにくい面がある。既存ストックの可能性を伸ばしていくような、「駅前小さな身近な拠点づくりとそれの連携・ネットワーク」ぐらいが適切では。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取組の方向性として掲げる項目としては「多心型まちづくり」と表現した上で、本文中では、「様々な魅力が連携しあう多心型の都市構造の実現に向けたまちづくり」を「特性や魅力を活かしたまちづくり」とする。 	P10 9行目

No	章	項目	意見概要	修正内容	該当箇所
10	第4章 目指すべきまちの姿と取組の方向性	分野「まちづくり・地域産業」	<ul style="list-style-type: none"> ・就労については、「学び」と同じように、「働く」という表現しても良いのではないか。 ・就労は、福祉で多様な働き方としてふれるのが自然。起業は、産業として吸収できるのでは。働きやすいまちと広義でくくるのは良いが、就労単体で出すのはどうか。 ・区も大企業を育てることを期待していないはず。一旦、「まちづくり・地域産業」でまとめる。 ・小さい規模での起業、地域密着の事業、空き家マッチングビジネスなど住宅都市としての産業の視点を入れていってはどうか。 ・産業は、まちづくりや環境など各分野に溶け込ませるのも良いのではないか。「産業」の記載は、逆に産業を軽んじているように見えないか。 ・人生100年時代に就労をどう捉えるか。ほかに溶け込ませるので良いと思う。 ・就労をもっと広義に考える。企業の立ち上げも就労ではないか。いかにビジネスの芽をサポートしていくか、新たな産業を育てていく夢のあるような視点があると良い。 ・B案の産業・就労のページの(1)、(2)と地域産業を根差した視点を立てれば、取組の方向性を3つは書ける。 ・まちづくりと一緒にするのはもったいない。区の産業をどうしたいのか見えてこないように思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「まちづくり」分野と「産業」分野をまとめるとともに、「産業」については「地域産業」とし、「まちづくり・地域産業」分野とする。 ・「まちづくり・地域産業」分野の取組の方向性として、「多様な人材による創業を支援して、まちのにぎわいと活力を高め」ること、「誰もが多様な働き方を選択することができるよう就労支援を充実し、地域産業の活性化につなげ」ることを示す。 	P10 1行目、 28行目、 30行目
11	第4章 目指すべきまちの姿と取組の方向性	分野「文化・スポーツ」	<ul style="list-style-type: none"> ・全体のバランスを見ると、B案の「学び・スポーツ」「産業・就労・文化」のほうがまとまりがあるのではないか。 ・歴史的に考えると、文化行政は、杉並をはじめ、多くの自治体で区長部局にうつっている。そういう意味では、学びとは異なる視点では、スポーツも学校でやるスポーツだけでなく、誰もがスポーツをする時代として、大人のスポーツが区に求められる。そういう意味では、文化・スポーツのほうが、すわりが良いと感じる。 ・産業・就労に文化が入るのはどうか。もったいない。「文化・スポーツ」で良いのではないか。 ・子ども、学び、文化・スポーツは、A案でまとめるのが良い。学びは独立させてほしいと強く願います。教育の振興計画（ビジョン）にもつながっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「文化」と「産業・就労」、「学び」と「スポーツ」は、それぞれ別の分野とする。 ・「文化」と「スポーツ」をまとめ「文化・スポーツ」分野とし、「学び」は独立した分野とする。 ・「就労」は、「地域産業」として「まちづくり・地域産業」分野とする。 	P22 1行目ほか
12	第5 区政経営の基本姿勢	新たな協働（官民連携等）のかたちをつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・「連携・協働」と使い分けているが、それ以外では、協働という言葉優先して使っている。ほかには、連携等の等を含めているなど、表現の整理が必要ではないか。 ・「官」という表現は使わないほうが良い。杉並区は、官ではないのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「連携・協働」の表現を「協働」に修正・統一。 ・官民連携という言葉言い換え。 	P24 2行目、 5行目

No	章	項目	意見概要	修正内容	該当箇所
13	第5 区政経営の基本姿勢	未来につなぐ区政経営の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「不合理な税源偏在是正やふるさと納税制度による税収の流出などの影響もあり」と記載があるが、ダイレクトな表現であり、適切か。 ・「不合理な税源偏在是正やふるさと納税制度による税収の流出などの影響もあり」は、もっとわかりやすく書く。本来区が受け取るべき法人住民税が入っていないことを伝えていっても良いのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「都市部から地方部へ財源を移転させることを目的とした税制度（法人住民税の一部国税化）やふるさと納税制度など」に修正のうえ、用語解説を付記。 	P 25 2行目、 9行目
14	第5 区政経営の基本姿勢	未来につなぐ区政経営の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「稼ぐ」という言葉は、単に税収を増やすだけでなく、自治体独自で収入を上げるという視点もあるが、全体会の議論を踏まえ、どうしていくか検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「収益確保策の検討など、従来の発想や前例にとらわれることのない歳入確保のための方策」に修正。 	P 25 17行目
15	第5 区政経営の基本姿勢	未来につなぐ区政経営の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「施設の長寿命化」というのは、一般的な表現か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国や区の計画名であり、そのままとする。 	P 25 22行目
16	第5 区政経営の基本姿勢	未来につなぐ区政経営の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「経済循環」との表現がわかりづらいか 	<ul style="list-style-type: none"> ・「環境負荷の軽減」に修正。 	P 25 35行目